ロバに後ろ向きに乗る仙人 張果老（ちょうかろう）

2026年の神韻芸術団の巡回公演の中には、ひときわ風変わりな舞踊劇『仙人張果老』が上演されています。仙人である張果老は、型破りな言動や奔放な身なりのほか、何よりも「ロバに後ろ向きに乗る」という奇妙な姿で観客の目を釘付けにしました。この風変わりな振る舞いの奥には、一体どのような知恵が隠されているのでしょうか。今回は、張果老という人物とその「後ろ向き」の智慧（ちえ）についてご紹介します。

中国の伝承には、「八仙（はっせん）」と呼ばれる道教の仙人たちが登場します。彼らは道（どう）を求めて峻烈な修行を重ね、俗世を超えて眞の自己へと立ち返り、不老不死に至ったとされています。張果老（ちょうかろう）、またの名を「通玄先生」は、その八仙の中でも特に個性的で、不思議な存在として知られています。

『旧唐書』『新唐書』などの史書によれば、張果老は歴史上実在した人物です。7世紀、唐の時代に恒州（現在の河北省石家荘市一帯）の山中に隠棲し、不老不死の術を得たと噂されました。唐の太宗や高宗、則天武后ら歴代の皇帝がその名声を慕い、山から宮廷へ招こうとしましたが、彼はことごとく辞退しました。


張果老見明皇圖（張果老が明皇に謁見する図）の一部(パブリック・ドメイン)

開元22年（734年）、唐の玄宗は通事舎人・裴晤を使わして張果老を招こうとした際、彼は山を下りたところで息絶えてしまいました。驚いた裴晤が香を焚き、玄宗がいかに眞摯に道を求めているかを伝えると、死んだはずの張果老は再び息を吹き返したといいます。こうしてようやく朝廷に出仕した張果老を、玄宗は格別の礼をもって迎えました。張果老は宮中で数々の奇跡を起こし、人々を震撼させました。その鮮やかな活躍の一端が、神韻の舞踊劇『仙人張果老』として舞台上で再現され、世界中の観客から喝采を浴びているのです。

言い伝えによると、張果老は外出の際、常に白いロバにまたがり、一日に数千里を移動したといいます。休む時に、その白いロバを紙のように折り畳んで箱にしまい、再び乗るときには水を吹きかけ、たちまち生き生きとしたロバに戻しました。そして、その乗り方こそが最大の特徴であり、常に「後ろ向き」だったのです。

なぜ彼は、あえて後ろを向いて進んだのでしょうか。清代の著作『八仙得道伝』の中に、その手がかりとなる一節があります。

唐の末期、張果老は道教の祖である張天師に出会い、千年後の世の有様を予言しました。

「これから千年後、世の中はこうなるでしょう。官職を得た者は公を顧みず、私利私欲に走りましょう。賄賂は幽霊たちが飯を奪い合うように、堂々と行われてしまいましょう。官職のない平民は親孝行を忘れ、風紀は乱れるでしょう。人々は己の利益ばかりを追い求め、礼儀や恥を知る心は失われてしまうのです」

張果老のこの言葉は、皮肉にも今日の中国社会の病理を言い当てているように見えます。中国を統治している中国共産党の各級の官員たちは、汚職に手を染めない者はほとんどおらず、しかもその誰もが貪欲極まりないのです。金銭、財宝、不動産、美女などの賄賂が堂々と行われており、役職と肩書きには価格が明示されてしまいます。一般の人々も、親孝行知らず、淫らな男女関係、利己主義、有害な食品、詐欺、賭博、薬物乱用。伝統的な価値観や道徳が軽視され、利己主義がはびこる世の中——。このすべては、張果老が語った話とよく似ていると思いませんか？

こうして見ると、張果老はなぜ後ろ向きにロバに乗るのか、その眞意が見えてきます。それは単なる気まぐれではありません。一見「前進」しているように見える人間社会が、実は道徳的に「後退」していることを鋭く批判しているのです。張果老はあえて後ろを向くことで、失われつつある善良な本性や正しい道に目を向けるよう、人々に悟らせているのです。

前に進む時は、これまで歩んできた道を振り返り、過ちを繰り返さないことが大切です。未来を見通すことは難しくとも、過去の経験を鑑（かがみ）とすることで、より正しい前途を切り拓くことができるでしょう。張果老は、その「後ろ向き」の姿を通して、私たちに眞の前進とは何かを問いかけているのです。

（文・唐風／翻訳編集・常夏）

ピザの歴史をたどる～ ナポリの「貧民パン」からイタリアの象徴へ～

夕暮れのナポリ。海風がほのかな塩の香りを帯びて、吹き込んできます。レンガ窯の中で薪がパチパチとはじける音とともに、手際よく伸ばされた生地が、粗い小麦粉を振った石の台に打ち付けられています。トッピングはトマトにモッツァレラ、そして数枚のバジルの葉。たったそれだけです。

わずか90秒後。縁がぷっくりと膨らみ、底に香ばしい焦げ目のついた一枚のピザが、木の板に載せられて運ばれてきます。折りたたまれ、あるいは切り分けられて、客の手へと渡されるアツアツのピザ。

かつてはこれほどシンプルで手軽な「庶民の味」だった食べ物が、やがてイタリアという国の象徴になるとは、いったい誰が想像したのでしょうか。

一、貧民たちの命を繋ぐパン

ピザはもともと、優雅な食べ物ではありませんでした。

18世紀のナポリは、ヨーロッパでも有数の人口密集地であり、同時に最も貧しい都市の一つでした。港湾労働者や荷役、手工業者の人々は、「安くて、早くて、腹持ちがいい」食べ物を切実に求めていました。

ピザは、その需要を完璧に満たしたのです。小麦粉、水、塩、酵母で発酵させた生地。そこに載せられたのは、当時は収穫量こそ豊富でしたが、まだ「観賞用植物」と見なされていた赤い果実——トマトでした。さらに少量のチーズを添えて焼かれたのが、ピザの原型です。

皿もナイフもいらず、歩きながら片手で食べられる。貧しい人々にとって、ピザは美食ではなく、生き延びるための「必需品」だったのです。

二、王妃との出会い：マルゲリータが変えた運命

ピザの運命を大きく変えたのは、歴史のいたずらともいえる「偶然の出会い」でした。

1889年、イタリア統一後のナポリを王妃マルゲリータが訪れました。言い伝えによれば、地元の職人がトマト（赤）、モッツァレラ（白）、バジル（緑）を使い、イタリア国旗の色を表現したピザを献上したといいます。王妃はこのピザを大変気に入り、のちにその名をとって「マルゲリータ」と呼ばれ、愛されるようになりました。

この逸話の真偽はともかく、貧民の食べ物が国家的な出来事に登場したこと自体、大きな転機となりました。以来、ピザはナポリの路地裏を飛び出し、イタリア統一を象徴する国民食への道を歩み始めたのです。

三、移民によって世界へ広まったピザ

19世紀末から20世紀初頭にかけて、多くのイタリア移民がアメリカへ渡りました。

ニューヨークのイタリア人居住区には小さなピザ店が現れ、1905年にはアメリカ初のピザ専門店が販売ライセンスを取得。ピザは移民の郷土料理から、次第にアメリカの国民食へと変貌を遂げていきます。

アメリカへ渡ったピザは、独自の進化を遂げました。サイズは巨大化し、トッピングやチーズの量も増えていきます。シカゴではボリューム満点の「ディープディッシュ・ピザ」が生まれ、ニューヨークでは薄くて大きなスライススタイルが定着しました。ピザはもはや「イタリアの味」だけではなく、工業化された都市の食文化の一部となりました。

第二次世界大戦後、イタリア駐留中にピザの味を知ったアメリカ兵たちがその記憶を本国へ持ち帰ると、ピザチェーン店が爆発的に普及しました。ピザは「イタリアの味」を超え、世界的なファストフードとして定着したのです。

四、工業化の波と伝統を守る誇り

ピザがこれほど成功したのは、単なる味の問題ではなく、そのビジネスモデルにもありました。

標準化の生地、統一の焼き時間、そして再現性の高いレシピ。これらは多店舗展開に極めて適しており、街角の小さな店から巨大チェーンまで、あらゆる規模に順応しました。

しかしその一方で、ナポリのピザ職人たちが危機感を抱きました。「工業化」や「効率」という名の怪物に飲み込まれたらピザは、果たしてイタリアの伝統と言えるのでしょうか？

1984年、「真のナポリピッツァ協会（AVPN）」が設立され、厳格な基準が定められました。例えば、「生地の材料は小麦粉、塩、水、酵母のみ」「トマトは適度に酸味があり、かつ果肉が残っていなければならない」「モッツァレラチーズはひとさし指状のスライスにする」「薪窯で焼く」「生地は手で伸ばす」などが定められています。これらは単なるレシピではなく、文化を継承するための戦いでした。

2017年、「ナポリピッツァ職人の技」はユネスコ無形文化遺産に登録されました。ピザはついに、世界が認める人類の文化財となりました。

ナポリの貧しい窯から、世界中の食卓へ。街頭の食べ物から、一国の象徴へ。ピザがイタリアの魂であり続けるのは、それが常に大衆とともにあり、イタリア人の素朴で情熱的な人情味を体現しているからに他なりません。

今日もまた窯の中で薪が燃え、ピザの香ばしい匂いが立ち上ります。それは単なる美味な料理ではなく、一つの時代の歴史、人々の移動の記憶、そして一国の誇りが詰まった物語なのです。

（翻訳・心静）

安心！快速！熱情！成功率高！
本人不用去入管申請手續全代理 愛知 行政書士玉田事務所
☑ 専門為中部地區中国人申請簽證 ☑ 年中無休 ☑ 初次電話詳談免費 中國語OK!
入管ビザ（簽證）申請専門
会社設立・投資経営
☑留学簽證轉成投資経営簽證
☑人文、技術、技能簽證轉成投資経営簽證
☑国内親屬、友人来日、投資経営
定住、永住、帰化
☑日本人配偶者簽證轉成永住、帰化
☑離婚後日本人配偶者簽證轉成定住
查証業務
☑各種簽證取得・更新・変更
☑国際結婚、家族滞在
☑日本人的配偶者
☑人文、技術、技能、投資経営など
法務業務
☑不法滞在者的在留特別許可
☑申請假釋
☑簽證被拒後，再申請
☑各種理由書作成

9:00~18:00 中国語SB 090－1729－8181
日本語SB 080－4123－8572
日本語 普通電話 0587－81－8100
FAX 0587－81－8102
〒492－8143
愛知県稲沢市駅前2-4-4 スカイル21 101
http://www.visa-aichi.com
入國管理局承認行政書士
玉田和弘